19　　の　　　　　　　　　　助動詞④　る・らる

狸、戦にさへ負けて、二度の恥辱をせむかたなくこそ思ひａ（けり）。いかにもしてこの恥をすすがむと案じけるが、元の姿にてはなほもかなひがたくおぼえて、「鬼の形になりて彼らをたぶらかし、心迷ひせむ時、十二類をみなⅠ取り食ひてむ」と思ひて、黒塚にこもり居て思ひのままに鬼にⅡなりぬ。しおほせ　ｂ（たり）心地して、十二類、集会の所へおもむきけるほどに、道にて犬に吠えられて、既に危なくおぼえｃ（けり）ば、辛くして逃げｄ（ぬ）けり。心憂さ申すばかりなし。「犬にだに見知られぬ。まして辰、寅などはさこそすさまじからむずらめ」と思ひやられて、このくはだてもむなしくとどまりぬ。

【本文チェック】

①（　）ａ～ｄの中の助動詞を、正しく活用させて書きなさい。

　ａ（　　　　　　）　　ｂ（　　　　　　）

　ｃ（　　　　　　）　　ｄ（　　　　　　）

②傍線部Ⅰ・Ⅱを現代語訳し、書きなさい。

　Ⅰ（　　　　　　　　　　　　　　　）

　Ⅱ（　　　　　　　　　　　　　　　）

③「案じける」の内容はどこからどこまでか、本文に「　」をつけなさい。

【語彙力 ✚】

問１　次の語句の読みを、現代仮名遣いで答えよ。

１　戦〔１〕（　　　　　）

２　辛くして〔５〕（　　　　くして）

３　辰〔６〕（　　　　　）

４　寅〔６〕（　　　　　）

問２　次の語句の意味について、空欄を埋めよ。

１　なほ〔２〕　　　①（　　　　　　　　）

　　　　　　　　　　②さらに

２　辛くして〔５〕　（　　　　　　　　　　　）

３　すさまじ〔６〕　①興ざめである

　　　　　　　　　　②殺風景だ

　　　　　　　　　　③（　　　　　　　　）

問３　次の傍線部の意味として最も適当なものを選べ。

１　いかにしてもこの御文をらせん（太平記）

　ア　どのようにしたら　　　イ　なんといっても

　ウ　どのようにしてでも　　エ　どうであっても

　（　　　）

２　けしからぬ童べの行く先思ひやられて、後ろめたう覚えはべれ。

（うつほ物語）

　ア　憂いを晴らす　　イ　あれこれと心配する

　ウ　視線を向ける　　エ　心待ちにする

　（　　　）

３　を、ふと握り持たれば、うれしくおぼゆるなり。（竹取物語）

　ア　（自然と）思われる　　イ　（人から）思われる

　ウ　正気を失う　　　　　　エ　風流心を持つ

　（　　　）

【文法力 ✚】

問４　次の活用表の空欄を埋めよ。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| らる | る | 基本形 |
|  |  | 未然形 |
|  |  | 連用形 |
|  |  | 終止形 |
|  |  | 連体形 |
|  |  | 已然形 |
|  |  | 命令形 |
|  | | 意味 |

問５　次の傍線部の助動詞の、文法的意味と文中での活用形を答えよ。

１　物に襲はるるやうにて、あひ戦はむ心もなかりけり。（竹取物語）

　　　意味（　　　　　　　　）　活用形（　　　　　　　　）

２　さらにこそ信ぜられね。（大鏡）

　　　意味（　　　　　　　　）　活用形（　　　　　　　　）

３　今日は、都のみぞ思ひやらるる。（土佐日記）

　　　意味（　　　　　　　　）　活用形（　　　　　　　　）

４　亀山殿建てられむとて地を引かれけるに、（徒然草）

　　　意味（　　　　　　　　）　活用形（　　　　　　　　）

【古典常識】

問６　古代中国の天文学で使われた、太陽の進む道（黄道）を十二等分した呼び名を十二支という。日本では動物の名（子・丑・寅・卯・辰・巳・午・未・申・酉・戌・亥）を当てて、暦や時刻、方位を表すのに使った。

　　　「丑寅」が指す方位を次から一つ選べ。

ア　北東

イ　北西

ウ　東南

　（　　　）

【解答】

【本文チェック】

①　ａ＝けれ　ｂ＝たる　ｃ＝けれ　ｄ＝に

②　Ⅰ＝取って食ってしまおう　Ⅱ＝なった

③「いかにも～すすがむ」

問１　１＝いくさ　２＝から　３＝たつ　４＝とら

問２　１＝やはり　２＝かろうじて　３＝ひどい

問３　１＝ウ　２＝イ　３＝ア

問４　（る）　　れ ｜ れ ｜ る ｜ るる ｜ るれ ｜ れよ

　　　（らる）　られ ｜ られ ｜ らる ｜ らるる ｜ らるれ ｜ られよ

　　　意味＝受身・可能・自発・尊敬

問５　１＝受身・連体形　２＝可能・未然形

　　　３＝自発・連体形　４＝尊敬・未然形

問６　ア

【現代語訳】

問３　１　どのようにしてでもこのお手紙を差し上げよう。

　　　２　不肖な子どもたちの将来があれこれと心配になって、不安に思われます。

　　　３　子安貝を、さっと握り持ったので、（自然と）嬉しく思われたのだ。

問５　１　物の怪に襲われるようで、対戦しようとする気持ちもなかった。

　　　２　まったく信じることができない。

　　　３　今日は、都（のこと）ばかりが自然と思いやられる。

　　　４　（上皇が）亀山殿をお建てになろうとして、その地ならしをなさったところ、